吾輩は獣である。

るぅと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
吾輩は獣である。

【Ｎコード】
Ｎ２４９８Ｒ

【作者名】
るぅと

【あらすじ】
大好きな彼氏に浮気され、もう恋愛しないと決意し泣き寝入りしたら、なんと異世界トリップ☆その世界で主人公は、王様の絶対的な愛情対象である『獣人』だった！？しかし、『獣人』には破ってはいけない掟があって…。
顔文字が苦手な人は注意して下さぃ（、・ω・、）

００１．本当はヘコんでるんだかんね！！

走れ。　走れ。　走れ。
もっと遠く、誰にも見つからない所まで。

リアルな胸の鼓動を感じながら、私はいつもの見慣れた風景を走る。そう、これは夢である。
小さい頃から何度も見てきた、この世界。

私はいつもお城にいて、この世界の空気のような存在で自由に人や街を眺めていた夢。それが、人に見える様になったのはいつ頃だろう。最近の私は、この世界で『空気』ではなく、『部外者』として認知され、ふわふわ気持ちよく漂う夢から　追いかけられる夢にかわった。

とても不愉快である。

私はよく分からないまま、追いかけられ　逃げている。
最初の頃は、反射のように何となく捕まりたくないという意地だったが、最近は私の何かが捕まる事を警告しているように思えてきた。

今日もまた、早く覚めることを祈りながら　ドクッドクッと動くこのリアルな拍動を感じていた。

というか、私　こんな全力疾走しているけど　すっげぇヘコん

でるんだかんね！！！

さかのぼること、私が熟睡する数時間前のこと。私の7年間続いた愛は壊れた。

中学から付き合っていた、私の彼氏は「お前といても、家族といるように思えてしまう」とか変な事を言って去って行った。それもメールで。男ならせめて、電話とか面と向かって言いやがれ。あ、男女差別だわw申し訳ない☆えへ（＊´∀｀）

家族みたいに思えるとか、それはプロポーズ並みの褒め言葉じゃないのかよ！！！？とか思ったり去り際の言葉が意味不明すぎて、もっと色々恐喝しようと思ったけれども。

要するに、私に飽きたのだとすぐに分かった。そもそも半年前から、私たちの愛は冷めていたし、友達からは私の彼氏が他の女の子と、手をつないで歩いていたという目撃情報付きだった。

うん、絶望的。え？なんでその時に別れなかったんだって？
そ、そんなの7年間の愛着が…　なんて嘘。
大好きだったからに決まってるじゃない！！！！

彼氏は私のことなんて　もぅ何も感じてないだろう。
きっと今頃は新しい女とラヴラヴ。
それも、目撃情報によると相手の女の子は巨乳ちゃん。
どうせ私は、まな板ですよ。

毛の生え方的に将来絶対ハゲだとか、巨乳は3日で飽きるもんとか、身長低かったとか、男は星の数ほどいるとか…。偏見と適当な事を思って、彼氏をボロクソに言ったりして　自分を慰めた。

暗いッ！暗いよっ私。

そんな根暗な私がとる、最後の手段は『泣き寝入り』。負け犬とか言うな！！（　。皿　。）

せめて夢ぐらいは　ジャ●ーズ並みの良い男に抱いてもらう夢を見るんだ！！

というか、もぅ現実で恋愛なんかしてやんないんだから！！！と思って眠ったのが、

古瀬ゆあ　大学1年生　１９歳の数時間前の出来事である。

だから、私は全力疾走なんてするほど、本当は元気じゃないんだかんね！！！！

００１．本当はヘコんでるんだかんね！！（後書き）

醜い文章ですが（，・ω・、）楽しんで読んでいただけたら、嬉しいです。

００２．私が捕まる３分クッキング☆

ーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー｜｜｜｜｜｜

　『獣人』とは王にとって必要な存在。
１人の孤高の王を癒し、支え、正しい道に導く。
王の絶対的な愛情対象であり、獣人を脅かすものは許されない。
王に１匹現れるとされるが、性格・性別・姿など様々であり
詳しくは不明とされている。

だが、一つの共通点は　目と　毛が黒いこと。

王と獣は命が芽生えた時から惹かれあい、
お互いの事をあった時に分かるという。

　王と契りを結ぶ事を契約といい、
この時　初めて王は獣人をつかえさせた事になる。

　ただし獣人は、汚れをしらないとする。

｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜｜

ガサッ！！　ガサッ！！！！！

私はお城の庭の裏にある、茂みに隠れた。
草むらにしゃがみ、息を殺していると　近くを追いかけてきた兵士が走っていくのが分かった。はぁ…疲れた。。ため息をついて、頭を下に傾ける。

ふわり。

『なにか』が、私の頬に当たった。視界には白い『なにか』。恐る恐る、視線を横にずらすと…そこには、白くて長い耳があった。
え？なにこれ？
私の視界に現れた白い耳を、とりあえず引っ張ってみる。

「いっっっ！！！！！！」

白い耳の攻撃。私に１００のダメージ。効果抜群だ！！！じゃなくて、目茶苦茶痛い。
なんで、私が引っ張っるという攻撃したのに、私が痛いの？カウンター？え、白耳ちゃん強ぇｗ

なんてくだらない事を考えながらも　まさかと思い、ふわふわした白い耳を手で辿っていく…。ゴールはやっぱりの私の頭の上。えぇ、ばっちり生えちゃってます、なんか白い長い耳が。自分が本物のバニーガールになるなんて。。

Σ（；゜ω゜）ハッ！！

他にも変わっている所はないか、私は自分の体を触りまくる。そりゃぁもう、痴漢もビックリするぐらい　ねっとり　しつこく触りまくる。発見としては新しい耳が生えたせいか、もともとの人間である耳がなくなっていた。まぁ、確かに耳は４つもいらないよねぇ…。と妙に納得しつつ、後ろをみると、また『なにか』が左右に動いていた。そうだよね、バニーちゃんには耳とあともう一つ☆うんうん、尻尾が必要だね！！

って、マジかーい！！

もちろん尻尾は白でふわふわしているけど、それはウサギというよりも犬の尻尾に近い形をしている。恐いけど、興味に負けて　私はまた尻尾の原点を探る。

まさか、次は尻尾の代わりに肛門がなくなるのでは！！？と危惧したが、人類の進化の過程で捨ててきた尻尾の名残と言われる肛門の上の、お尻のクボミから生えていた。そうか、私は退化したのか。

ということは、私は二足歩行をして火を使い始めて、これら全部が歴史に残るのかなぁ。なんて現実逃避していて、私は忘れていた。

そうです、私は今　絶賛逃亡中でした！それも、考え事してたから、尻尾だけ茂みから飛び出てる状態。頭隠して尻尾隠さずってやつですね、わかります。

未来の私が、もしもこの時に戻れるのならば、確実に頭ひっぱたいて逃げろと忠告しただろう。

私が捕まる３分前。

００２．私が捕まる３分クッキング☆（後書き）

お気に入り登録、ありがとうございます。+．（*゛ｐωｑ）。+．

００３．不可抗力なんです（、・ω・、）

～お城の庭師　ケイト視点～

今日も、またお城に『獣人』様が出現したらしい。半年前ほどから、姿を頻繁に現している『獣人』様は、どういうわけか逃げ回っている。城の者達も困惑を隠せず、もちろん例を漏れず俺も驚いている。

前の『獣人』様は、前王様が病気で倒れる前に　一度だけ見た事がある。黒い羽根を背中から生え、足が人間とは違い　４つの指と大きな爪がついていた。高貴な色として尊われている『黒』を全身で身につけている『獣人』は珍しく、王様と寄りそっている姿は美しかった。

あの時　まだ俺は１６歳のペーペーな庭師だったが、１０年たった今でも　その感動を覚えている。

そのため、王様に１匹現れるとされる『獣人』様が現れた時には、とうとう新しい王様が認められたのだと誰もが思った。契約をしに来たのだと。

だが、その予想は大きく裏切られ　何故か前代未聞の『獣人』様との追いかけっこが始まった。最初こそは、『獣人』様が自ら心を開き　近づいてくるのを待っていた王様だったが、さすがにそろそろ契約を結ばないと色々問題が生じてきたらしい。

ということで、今日も城の者たちは『獣人』様との追いかけっこをしているわけである。

もちろん、俺も探すために派遣されているのだが。はっきり言って、このデカイ城の中で見つけるのが不可能だ。
それも、タイムリミットつきで、『獣人』様は現れて3時間ぐらいで消えてしまうらしい。王様が感知できなくなると言っていたそうなので、本当なのだろう。

早々に諦めて、昼寝でもしようかと裏庭に来た俺の視界に　白いふわふわした「なにか」が揺れているのを発見した。

…なんだあれ？

俺はイカツイ顔しているから人には言えないが。大の動物好きである。というか、可愛いものは好きだ。まぁ、だから庭師なんていう　遠まわしの花弄りをしている。
あの　ふわふわ感からいって、なにかの動物だろう。つい、顔が二ヤケてしまう。

一ついっておくが、城の者には今回の『獣人』様の特徴を何一つ知らされていなかった。見たら人間とは違うから　すぐに分かるだろうという理由と、逃げ足が速いための情報不足が理由だろう。

だから、俺が何も知らずに　ニヤケて「なにか」に触れようと思

ったのも、仕方ないと分かってくれ。

逃げないように、茂みに近づき　驚かさないように　そっと尻尾に触れた、瞬間。

「ぅあっ、やんッ！！！」

妙に色っぽい声とともに、現在逃亡中の『獣人』様が茂みから出てきた。

もう一ついっておくが、今回の『獣人』様の性感帯が尻尾なんて情報は何一つ知らされていなかった。

だから、俺が何も知らずに　その色っぽい声を鳴かせてしまったのも、仕方ないと分かってくれ。

００３．不可抗力なんです（、・ω・、）（後書き）

評価、お気に入り登録ありがとうございます（、ノωノ、）メソメソ

００４．変態、ダメ、絶対。

穴。　穴は何処ですか！！！？（，　。д　。、＃）

私、古瀬ゆあ　ピチピチの１９歳は「穴があったら入りたい」という言葉を痛感してる、なう！！あ、なんか使い方を間違えた感あるｗ

私もそうだと思うが、目の前のイカツイ兄ちゃんは顔を真っ赤にして止まっている。ってか、この状況ピンチじゃなーい？乙女の危機フラグたってますよ。強姦、ダメ、絶対！！
色々と身の危険を感じたのか、私の耳も尻尾も垂れている。あ、耳はもともと垂れてたか☆

脳みそはフル回転中だが、実際にどう行動すれば良いのか分からずに、お互いフリーズ。最初に行動を起こしたのは、イカツイ兄ちゃんの方だった。

「じゅ・・・・」

私の方を見ながら、何かを言おうとしている。

…じゅ？ジュ・テーム？え、そしたらヤバくね？私　絶対犯されるに１票。

「獣人様！！お許しください！！！！！」

ガバッと音が出そうな勢いで跪(ひざまず)くイカツイ兄ちゃん。庭でバニーガールもどきにイカツイ兄ちゃんが跪いてる姿…傍から見たらシュールだ。というか、私が悪女っぽい。

「な、なんですかぁ！私の方が今、許してほしいくらいですよ！」

先程のことを思い出し、泣きそうになる。ついつい思考に没頭していた私は、こんな大きな耳をつけているのに物音一つにも気付かず、このイカツイ兄ちゃんに尻尾を触られた。

別に減るもんじゃないから良い…が、結果としては限りなく良くない。

目茶苦茶　変な声をあげてしまったのだ。それもR指定系の。真っ赤な顔をしていたから、イカツイ兄ちゃんも気付いただろう。あぁぁあ、穴はまだなの、セバスチャン！！！

お互い泣きそうな顔をして、困っているバニーガールもどきとトラックの運転でもしてそうなイカツイ兄ちゃんが見つめあっていると、イカツイ兄ちゃんの後ろから　ものすごい美形が現れた。

サラサラの金髪が風になびいており、目は二重でややつり目でまつ毛バサバサ。鼻もスッと通っており、体全体も引き締まって長身。

１８３ｃｍはあるとみた。色も白く、赤いマントを羽織っている姿は、おとぎ話の王子様のようだ。

戦いますか？はい・いいえ

もちのろん、「いいえ」を連打である。チキンな女子大生にはキツイっす。

私が後ろの方を見て、目を大きく開けているので　イカツイ兄ちゃんも異変に気付き、後ろを振り返る。

「お、王様！！！」

ＯＵＳＡＭＡ…、だと？イカツイ兄ちゃんは、顔が地面にめり込むのでは？と思う勢いで頭を下げる。

やっべ、出遅れた。と思いつつも、イカツイ兄ちゃんと同じような態勢をしようと跪くために、膝をおる。バニーちゃんでも、夢の世界でも、郷に入っては郷に従えである。ましてや、この美形が王様ならば、無礼者～！って首を飛ばされるかもしれない。
失恋後の夢で自分死ぬとか、悲し過ぎる。

しかし、私はイカツイ兄ちゃんと同じ姿勢をとれなかった。何故なら、王様に抱きつかれたからである。だから、セクハラ、ダメ、

絶対！！！イケメンなのに、変態とか残念すぐる！！！

一方的に抱きしめられ、跳ね返そうにも王様という立場を考えると行動が起こせない。悲しいかな、はっきりＮＯとは言えない典型的な日本人なのだ。私はただ「あぅあぅ」と言いながら、行き場のない手を動かすしかない。

ってか、今気付いたけど尻尾も耳もピーンと立っている。なにこれ、私の感情に反応するの？プライバシーとか関係ない上に　感情ダダ漏れやん。

「…会いたかった。」

美形な王様に抱きしめられながら、色っぽく耳元で囁かれる私。私も会いたかった～Ｙｅｓ！！なんて答えられるはずもなく、鼻血が出そうです、マジで。

一息つくと、王様は私を抱きしめていた腕を緩めた。あ、そういえばイカツイ兄ちゃん　蚊帳の外だな、可哀想に。

美形は、近くでみても美形でした。近い、近い、近い、近い、と思いつつも至近距離で美形に見つめられる私。緊張と興奮で、鼻の穴が広がりそうだ。

意識したら最後、私は鼻血を撒き散らして倒れると容易に想像で

きるため、常に萎える事を考えている、私の可愛い脳みそ☆しかし、この欠点は　現実に起こっている事の対応に遅れることである。

近いと思っていた美形の顔が、さらに近くなり　私の唇を奪っていたのに気付いた私は

「変態チネーーーーーー！！！」

と、叫んで美形を思いっきり殴っていた。　それもグーで。

むしゃくしゃしてやった。今は後悔している。

００４．変態、ダメ、絶対。（後書き）

読んでくださった皆さんに感謝です！ありがとうございます＊．
（（ノェ、＊）っ））タシタシ

005．これって、あり？

イケメン王様に、キスされる夢をみる。これって　あり？

数時間前の私なら、あり！と全力で答えられただろう。でも今なら、なしって言うよ。こんなリアルなのは嫌です、はい。寝る前にジャ●ーズに抱かれたいなんて思ってごめんなさい、生きててごめんなさい！！！

と、イカツイ兄ちゃんに連行されながら思っているわけです。ヤンデレルートに入りそうだ。あ、でもデレがないや。

そりゃぁ、いくら夢でもバニーガールでも、王様を殴るのはダメだろう、自分。

私が見事なネコパンチならぬ、バニーパンチをくらわせた後も変態…間違えた、王様は抱きついてきた。「愛してる」と囁きながら。生まれてから初めて、変態の底力を目撃した気がする。

変態　怖ぇぇ！！ガクガク（（（（　；　。Д　。））））ブルブル

ちなみに、王様は恐い顔した　頭の良さそうなイケメンたちに逮捕されていった。後から知ったが、彼らは王様の補佐の方たちで王様は仕事中に脱走していたらしい。変態の補佐とか、大変だな…。

とりあえず、私は変態と離れられて嬉しいのだが、今から　どんな罰が下されるのかを考えると、武者震いがするぜ！！！…嘘です、ただの恐怖です。

イカツイ兄ちゃんは最初の「ついてこい」から一言も話さずに、黙々とお城の長い廊下を歩いている。私もその後ろを黙々とついて行っているのだが、先程チラリと窓にうつった自分の姿は　まさに連行されている犯人に見えた。耳も尻尾もこれでもか！という程に垂れていて、そろそろポロリと　とれそうだ。

もしも、尻尾や耳がとれたら　燃やしてオーストラリアの海にばら撒いてほしい。『助けてください！！！』異世界の中心で助けを叫ぶ。あぁ、笑えない。

って、目の前に大きな壁が…　壁が！！？

「グェッ。」

大きな壁はイカツイ兄ちゃんの背中でした。立ち止まったのに気がつかず、その背中に鼻から突っ込んだ私は、蛙がつぶれたような声が出た。

女子力？なにそれ、美味しいの。

分かったから、そんな憐れみを含んだ目で私を見るなイカツイ兄ちゃん。

「突然立ち止まり、失礼いたしました。ここが、獣人様のお部屋でございます。」

どうやら、私はとりあえずココで死刑執行を待つらしい。

「ありがとうごじゃぃます。」

あ、久しぶりに喋ったから　かんじゃったよ。

「お召し物が汚れていらっしゃいますので、あとで侍女をお呼びいたします。」

かんだのスルーかぃ。

「でも自分で着替えるので、侍女さんは大丈夫です。洋服だけ貸していただけたら…」

死刑囚の服に着替えろということですよね。

「では、お部屋のクローゼットにある洋服の中から、お好きなものを…」

「はぁい～」

皆様、お忘れかもしれませんが。私、寝ている時に見る夢だからか、寝た時のままのウェットにTシャツという格好なんです。それも茂みに隠れたから、葉っぱとか泥とか付いてて汚い。

王様はこの格好の私を、よく抱きしめる事が出来たなぁ…。

ガチャッとドアノブを回して案内された部屋に入る。扉をぬけたら、そこはピンクでした。雪国の方がまだ、ましだ。

ピンクを主とした家具で整えられたこの部屋は、フリフリのレースがふんだんに使われ、かなり乙女チック☆ってかなんでロリータちゃん風の部屋!?はっきり言って、ピンク過ぎて一般ｐｅｏｐｌｅの私にはイタイ。目が、目がぁぁぁ!!

死刑囚の待合室はピンク一色のフリフリ。これってあり?

００５．これって、あり？（後書き）

お気に入り、評価本当にありがとうございます！
少しでも楽しんでいただけたら嬉しいでう（つω、＊）

００６．ど～する？ど～すんの私！

良い天気ですね！　そーですね！　夢、長いですね！　そーですね！　リアルですね！　そーですね！…さすがに１人いいとも！ごっごも、そろそろ飽きた。

どうして現実逃避をしているのかと聞かれたら、答えてあげよう世の情け。世界の平和を守るため～～。あ、また現実からそれちゃったよ。

まぁ現実から目をそらしてしまうのも、仕方ないと見逃してくれよ、ワトソン君。だってさ、クローゼットの中は、ウェディングドレスが沢山　つまってるなんて想像してなかったんだよ。

え、まさか夢の国では、ウェディングドレスが私服なの？……ウェディングドレスをいつも着る～♪いやいやよ～～～～♪（ゞノ・∀・、）

でも、私汚れてるし　着替えるって言っちゃったし。ってか、死刑囚の服がウェディングドレスとかリッチだな、おいw

真っ白な純白のウェディングドレスを手に取り、途方にくれる日がくるとは…。

ど～する？ど～すんの私！！

ため息をつきながら、シンプルな形で背中がパックリとあいているセクシーウェディングドレスを眺めていると、その下に置いてあ

ったらしい箱に気付いた。　古瀬ゆあは箱を開けた！　しかし、中は空っぽだった！！…な～んて事はなく、予想を裏切り　中には体にピッタリくっつくような黒い長袖の服と、収縮性のありそうなチノパンの形をしたカーキ色の長ズボンが入っていた。

思うに、これは…きっとあれだ。生足を年中無休で見せてくれる、世の中の足フェチや男性の味方☆の女子高生が、真冬対策として履いてしまう残念な感じのスカートＩＮジャージみたいなモノではなかろうか。あと、ヒート●ック的な？ｗ

しかし、暑がりの寒がりである私をなめないでほしい。コタツの中に入りながら食べるアイスは格別だ。　良いものをみつけた、とほくそ笑み　私はルンルン♪と部屋に完備されていたお風呂に入った。

風呂場でも、私の格闘は色々とあったのだが（お湯が出ない、石鹸が異常に固いｅｔｃ．．）、あえて割愛させていただく。悪しからずｗ

汚れを落として、髪の毛も綺麗に整えた後に私は早速、先程自分が準備した服に着替えることにした。我ながら傑作だ。ちなみに私は寝る前にはつけない派なので、現在ノーブラだけど、なにか？貧乳なめんなぉ。

誰も気づかなくても、べ…別に悲しくなんか　ないんだかんね！！！

ちょうど、着替えを済ませて髪も乾いたところに　コンコンッと、扉をノックする音が聞こえた。きっと、あのイカツイ兄ちゃん　もしくは侍女さん、か　死刑執行人あたりだろう。あまり考えずに、「どうぞ～」と返事をする。あ、耳に毛玉が出来てる。私は開いたドアから入ってくる人物を確認せずに、毛玉の対処を行っていた。けっこう大きな、これ。

しかし、いっこうに入ってきた人物は何も話さない。さすがに毛玉の駆除に夢中だった私も、異変に気付いた。…なんだか、空気がおかいしい。

ドアの方を振り返ると、　そこには王様がいた。

それも、出会った瞬間に抱きついて外人もビックリ☆な熱烈な挨拶をかわしてきたくせに、今は扉の前で棒立ちしている。…Ｗｈｙ？

やっぱり、好きに着て良いとは言われたにしても　許可をとらずに服を切ったのはヤバかっただろうか。何を隠そう、私は夏にはトランクスを買ってきて短パン代わりとして寝間着にしている。…だって安いし。

私の世界は秋だったが　こちらの夢の世界は昼ということもあり、日がサンサンと射して暑い。ということで、私は見つけたチノパンを切って短パンにし、上の黒い長袖も半袖に切り　切った袖部分の踵と先端を切り、ニ―ハイトレンカソックスを生みだし履いたのだ。絶対領域　大事！！

この夢の中にハサミがあったことが幸いだった。さすが夢！ご都合主義万歳！！もちろん、尻尾用にズボンに穴を空けておいた。さっきまで、ズボンの上から尻尾が出てたから　軽く半ケツだったのよね。もう少しで、私も変態の仲間入りをするところだった。うんうん。

あ、変態王様が動いた。

ツカツカツカツカツカ！！と上品な足音を立てて、驚くほどのスピードで私が座っているピンクのソファに近づいてくる。今度、ムーンウォークは出来ないか聞いてみよう。きっと似合う。

とか余裕かまして思ってたら、ソファで王様に押し倒されてた。

…え、この人　ハァハァ　とか言ってますけど？私の首をなめてるんですけど？？

「　お前が…　イケないだ。　ハァハァ・・」

そうですね、私がイケないんですよね、分かったから、離れて下さい。触るな危険。

手をグーにして、大好評につき本日2回目☆バニーちゃんパンチ！をしようと思ったら、先に変態に手を掴まれて拘束された。

これじゃぁ、大好評につき本日2回目☆バニーちゃんピンチ！だ。

ど～する？ど～すんの私！！！

００６．ど～する？ど～すんの私！（後書き）

感想、評価、お気に入りありがとうございまぅ（、ω、。）

感謝感激雨嵐です！！

００７．死ねばいいと思うよ☆

王様の腕は細そうなのは見掛けだけで、意外とがっしりしていた。今流行りの細マッチョってやつか。いいよね細マッチョ、女の子にしてみたら好評価ポイントだろう。しかし、そんな好評価も使用用途によっては地に落ちてしまう。というか、女の子を拘束するために使うヤツなんて　地【獄】に落ちてしまえ。

掴まれて動かない自分の腕を睨みながら考える。この状況が打破できる神の一手を。　あ、こらこら、股の間に体を入れてくるな。鼻息を首にふきかけるな。

いちいち、静かに脳内でツッコミしていたら　抵抗しないのを肯定だと勘違いしたのか、変態は服の下にまで手を入れてこようとした。うん、死ねばいいと思うよ。

「や～め～て～く～ださい～～～～！！！」

全力でいやいや、と顔を振り　足をバタつかせても「…可愛い」の一言でスルーされてしまう。ダメだ、何してもコイツには効く気がしない。変態に効く薬を知っている人はいねぇか～～。

「黒い髪に黒い目、何よりもこの高揚感。間違いない、俺の獣人。やっとお前を手に入れることが出来る…。」

私の首元に顔を埋めながら、切なげに呟く。
…が、私にはストーカー並みの勘違いと片思いの塊の言葉のように聞こえる。こわいよーママー。

白けた目…、否　軽蔑した目で見ていた私と、何かに取り憑かれたような熱い王様の目線が合う。

「…、　お前もこの高揚を感じるだろう？」

「感じません。」

王様の質問に即答で返す。人に腕を拘束されて、ハァハァする趣味はありません。しかし、その会話のやり取りで空気が少し変わったのを感じた。

「　私を見て、　…何も感じないというのか？」

「えぇ、（変態だと思う以外に）特には。」

あ、私の胸を揉んでいた手が止まった。　王様は驚愕している様子で、「そんな…」「いや、しかし・・・・」など、呟きながらふらふら　と、覆いかぶさっていた私の上から退いた。拘束されていた腕が赤くなっている。危ない趣味のある子のようなので、早く跡が消えることを願う。

「何故だ…　　まさか、お前。」

先程まで真っ青な顔でふらふらしていた王様が　いきなり、鬼の形相でこちらを見てきた。熱っぽく発情したり、青くなったり、怒ったり、忙しい人だ。

「汚(けが)れを犯したのではなかろうな…！？」

汚れ？一応、泥ならお風呂で流したけど？まだ臭うかしら。
イマイチ、分かっていない様子の私に、王様が違う言い方をしてきた。

「異性と禁を犯したのか！！？」

ようするに、やっちゃったのか　と聞きたいんですかね、この変態は。一応、私１８歳以上ですし、７年間も付き合った彼氏がいましたし。やってない方が難しいと思うのですけれど。まぁ、初めてを捧げた彼氏には振られちゃいましたけどねーーー！！！

「まぁ、はい。そうなりますね。」

私が素直に認めた瞬間、王様は壊れた。

００７．死ねばいいと思うよ☆（後書き）

読んで下さり、ありがとうございます／（＾ｏ＾）／

００８．用量・用法をよく読み、正しくお使い下さい。

王様が壊れました。

大きな笑い声が部屋に響いています。それも、何もない壁の方を向きながら。しかし、王様の背中は「怒り」のオーラを隠しきれていなくて、余計恐ろしい。

とりあえず、今までとまた別の意味で身の危険を感じるので、夢よお願いだから覚めさせてくれ。

王様が壁を見ながら笑っているのを良い事に、私はソファから離れ　部屋を脱出するべく壁にそってこっそり移動する。変態と狂人は紙一重だと、私はこの夢で学んだ。えぇ、とても学べる事が多い夢でございました。ご馳走様です、ってことで早く覚めろや夢。

バンッッッ！！！！！

はい、この音☆「王様どうなさいましたか～」とかで、兵士や侍女さんが入ってきた音なら　どんなに良かったか。

じゃぁ、良い子の皆に問題！今の音は何だったのでしょうか？

ヒント１：私は壁に張り付いています。

ヒント２：私は今動けません。

ヒント３：先程まで向こうにいた王様が目の前にいます。

そうだね、答えは王様に　また腕を拘束されて、思いっきり壁に貼り付けにされた時に出た　私の腕と壁がぶつかる音だね。大変よくできました！先生、嬉しくて涙出てきちゃうよ。嘘ぷｗ腕がすげぇ痛くて涙が浮かんできました。

「どこに行くつもりだ？」

大きな手で、私の腕を掴み　もう片方の手を壁につけながら王様はにっこりと笑い、私に問いかけてきた。本当に、シミ一つない綺麗な顔しやがって。ファンデーションとか化粧品のＣＭに王様が出てたら、その商品バカ売れ間違いないな。私も手に入れたいぜ、Ｎｏｔシミ　Ｙｅｓ潤い！

「どこに行くつもりだったのかと聞いている。」

イテ、イデデデデ！！！王様が私の腕を掴む力を強くした。可愛く首を傾げながら尋ねても、痛いわアホッ！！！

「お…おトイレに…」

その場から抜け出す際の一言エチケットだよね！空気を壊さず、さり気なく消える事ができます、どろん。

「ほぅ…トイレは、反対方向だが？」

どろん失敗。やっちまったぜ☆（ノ∀、＊）ペチ

どうやら、トイレは部屋に完備されており　ドアとは反対に位置するらしい。このブルジョアめ。

「…、他の男の所に行くのか…？」

トイレ以外の言い訳を考えていた私は、王様が呟いた言葉を聞き逃してしまった。病んでるイケメンの顔を見てもイケメンなので、とりあえず直視しないように下の絨毯（じゅうたん）を見ることにする。

この時、王様から見ると　自分の質問に頷いたように見えた。なんとも最悪のタイミングである。

ぎりぎりぎりぎりっっ！！！腕を締めつける力は強くなる一方で、我慢強いねって幼稚園の時に転んでも泣かずに褒められた私も、限界である。

「痛っっいです！王様！！！」

王様を直視しないように、目を細めながら言ったら　溜まっていた涙がポロリと零れ落ちた。女の涙は狂人＋変態にも効果があったらしい。

王様の力が緩んだ瞬間を見逃さず、私は腕を引き抜いて。自分の膝を思いっきり、王様の大事な息子さんに目掛けて打ち込んだ。パオーン。

これでも、痴漢対処法は嗜(たしな)む程度には、知っておりますのよ。まぁ、逆上する可能性も大きいのが、この対処法の欠点なので　世の中の女の子は用量・用法をよく読み正しくお使い下さい。

００８．用量・用法をよく読み、正しくお使い下さい。（後書き）

読んで下さった皆様に感謝でぅ（ノ）、ω、（ゞ）

００９．監禁、なう！

ピピピピピピピッ！！という目覚まし時計の電子音ではなく、外にいるカラスの「カァーカァー！！」という、けたたましい声で目が覚めた。

やっと変な夢から覚めた…。ぬくぬくと布団を堪能しながら、時計を見るとまだ４時前だった。どうりで辺りが薄暗いわけだ。

今回の夢は中々長くて　内容が濃かったなぁ。まぁ夢の中で見つかったことはあっても、捕まったことはなかったし…。…、なかった…よね？　あれ？昔にもあの世界の夢で、一度捕まった事があるような気がする…。

何かを思い出せそうになりかけた時、私の腕がズキッ！！と痛んだ。意識すると腕じゃなくて他にも体のあちこちが痛い。イタイ　イタイ　イタイ…

ズキズキッ。痛みで目が覚めた。

でました、夢オチ。それも夢の中で夢を見ちゃったよ。どんだけ～

～。ため息をつくと、顔がズキンッと痛んだ。あれ、なんで腕以外にも痛いわけ？というか、左目が上手くあかない。身体のあちこちが痛いのは夢オチじゃなかった。

私は右目をあけて、周りを伺う。どうやら私はベッドの中にいるらしい。それも、あのお姫様の部屋ではなく、もっと狭い部屋…とはいっても６畳の私の部屋とあまり変わらない広さだけどね。

丸い５０ｃｍ程の窓が一つあり、太陽が昇ってきた所なのか　少しずつ暗かった部屋が明るくなってきた。

木材で出来た勉強机のような机と、椅子、机の上には数冊の本とランプが置いてある。扉は３つあり、１つは細いので想像するにクローゼットだと思う。もう１つは、外へ通じるのだろうドアと　残り１つはたぶん、トイレとか洗面所的なものだろう。

なんで、私はここで寝ているのだろう？痴漢撃退した後の事が思い出せない。目も覚めてきたので、とりあえず顔を洗おうと洗面所にむかった。思った通りそこは洗面所だったが、予想が当たったのを喜ぶよりも、鏡に映った自分の顔の衝撃の方が上だった。

お、お化けがいるぅぅ！！ヒィ――（ノ）。Д。（ヽ）――！！

そこには、左目が大きく腫れて青くなっている自分の顔が映っていた。私の黒髪は胸の下辺りまで伸びている。きっと、白い服を着ればお化け屋敷で人気者になれるだろう。それも特殊メイクではなくて、本当の怪我とか　かなり体張ってんな私！！

先程のクローゼットからタオルを出し、水につけて腫れた顔を冷

やす事にした。調べてみると、掴まれた腕と右肩に痣(あざ)が出来ていた。

覚えてないけれど　どうやら、痴漢対処法は王様の逆鱗に触れてしまったらしい。だからって女の子を殴るのはヨロシクないわぁ。王様の将来はきっとＤＶ男だな。

一応、チャレンジとしてドアを開こうとしたけれど、外側から鍵がかかっていた。まさかの監禁！！？でも、あの王様なら考えられるなぁ…。夢だからなのか、イマイチ危機を感じない。

唯一ある丸い窓を覗くと、結構　綺麗な風景だった。赤く染まり始めている空は美しいし、城下町が見えて人々が活動し始めるのが分かる。お城の屋根に隠れて半分しか見えないが、手入れされた城の庭も見え、花が咲き誇っている。

私は勉強机から椅子を持ってきて、顔を冷やしながら飽きることなく　その風景を見ていた。

カタンッ

物音で意識が戻ってくる。あぁ…飽きることなくか言っといて早速、窓の所で眠ってしまったらしい。部屋には美味しそうな匂いが充満しており、机の上にご飯がおいてあった。起きようとしたら、寝る前にはなかった肩にかかっていたシーツが落ちた。いつの間に

人が入ってきたんだろう。

はふはふ　しながら野菜スープを飲み、食パン、デザートのフルーツを食べた。もぐもぐ食べながら、殴られても監禁されても、食欲のある自分に驚きながらも、もしかしたら　これは夢じゃないのかなぁ？とリアルすぎる夢に、疑問を抱き始めたのであった。え？気付くの遅いって？ｗ

００９．監禁、なう！（後書き）

評価・お気に入り登録・感想、
そして読んで下さった皆さんに感謝です（＊´・∀・｀＊）

０１０．このメス豚めっ！！

皆さん、ご機嫌いかがでしょうか？私は元気に監禁生活を送って……いるわけないでしょ、おバカさん☆監禁されて不愉快に感じないほど、図太くないわよ。この部屋に監禁されてから2週間経ち、顔の怪我も良く見ると腫れてるなというレベルまで治ってきた。ちなみにこの2週間、寝ても覚めても　この世界にいるので、さすがにこれが夢じゃないと気付いた。認めたくなかったけど。

監禁生活はご飯は3食出るし、お風呂もベッドも用意してあるし、一応ご飯の用意や洗濯物を取りに侍女さんが来てくれる。生活は保障されていて、何もしないで過ごす日々は贅沢でもある。しかし、現代っ子の私には、分かるかな？この生活は暇すぎるのだ！！やることなくて寝すぎたせいで、私のお肌はココに来た時よりもツルツルだ。

最近の私の悩みは、寝すぎて頭痛がすること。あぁ、慣れない大学生活や人間関係・課題で疲れがたまっていた時の私ならば、羨ましすぎる悩みだろう。この生活で平均１３時間睡眠の私だが、不眠症にならなくてすんだのは、机の上にあった本のおかげである。本の内容が難し過ぎて読むと3秒で寝れるという、のび●君並みの寝る速さを身につけたのだ。おかげで毎回同じ行（ぎょう）から本は進んでいないが。

コンコンッ

扉をノックし、部屋に入ってきて静かに礼をする彼女は、監禁生活での私の身の回りの世話をしてくれる侍女さんである。年齢は私よりも幼い１４歳前後で、なんと目も髪も青みがかかった紫色である。目は大きく、物腰や数少ない会話からも知的さを感じる。鼻の上にある　そばかすがキュートな子だ。

「獣人様、もう少しお食べになられないと…。」

テーブルの上に残してあるご飯を見て、侍女さんがため息をつく。あぁぁご飯を無駄にしてごめんなさい。別に、この世界のご飯がマズイわけではない。しいて言うならば、量が多いのだ。それも監禁生活の私は基本寝るなどしかしていないため、そんなにお腹が減らない。ご飯が勿体ないので量を減らしてほしいと言ったのだが、この世界の人は胃袋が大きいのか　逆にもっと食べろと怒られてしまった。

「そんなに食べてたらブタになっちゃうよ…」

ただでさえ、耳と尻尾ついてんだからさ。体型ぐらいは人間らしさを意地したいものだ。

「…？それと、用意してほしいと頼まれていたモノをお持ちいたしました。」

どうやら、おデブ＝ブタという考えがないらしい。じゃぁ、お黙り！このメス豚め！！とか言っても怒られないのかなぁ…。
私が頼んでいたモノが、片づけられたテーブルの上に置かれる。そう、私が頼んだもの　それは、もっこもこ　のパジャマである。

この世界は砂漠のように、昼間と夜間の温度差が激しい。そのため、私が昼間に着ている短パンやノースリーブなどでは、夜は寒すぎるのだ。
ということで！暖房器具に囲まれて冬を過ごした私には耐えきるわけもなくて、もっこもこのパジャマを頼んだのだ。耳と尻尾が何故か生えている私が、このもこもこパジャマを着ると他の人から見たら、本当の動物に見えることだろう。どうしよう、獣人じゃなくて獣って言われるようになったら…。

ササッと用事を済ませて、侍女が出ていく。その後ろ姿を見ながら、もうそろそろ限界だなぁ　なんて思ったり。監禁2週間に耐えたのも褒めて欲しいぐらいだ。
私は、昔からこの世界を夢に見てきた。それも、最近こそ城の人に追いかけられて捕まったりしているけど、昔は空気のような存在で城や町をよく探検してきたのだ。今こそ、その知識を活用するべきだよねー。

侍女さんが来る時間は規則正しく、特に夜から朝にかけては一度も巡回には来ない。脱走するならこの時間帯だろう。暗いから人目にもつきにくい利点つき。

問題の脱走経路は、もちろん窓である。屋根を辿れば地面に着く

と思われる。城の部屋数も多いから窓につかまりながら移動したり、カーテンが閉ってるからバルコニーで一休みも出来るだろう。

もっこもこのパジャマが届いたことだし、今夜　脱走することに決めた。久しぶりに何かを行うことへの興奮でお腹が痛くなってきた。ヤバいヤバい、下痢で決行が延期とかダサすぎる。

「…ふぐっ。」

夜になり脱走を行った私だが…出だしからつまずくとは、予想外だ。原因は下痢ではなくて、窓の開く幅が狭(せま)かったこと。そのせいで私のお尻が挟(はさ)まっているのだが、私が太ったからではなく　もこもこのパジャマのせいだと言い訳をしておく。

こ、こんな所で…負けられるかぁぁぁ！！！　ファイトー！！！　イッパーツ！！！

ビリビリッッ！！！

すっぽん☆っとお尻が抜けてマヌケな姿から逃れた私だが、メッチャ嫌な音が聞こえた。気のせいだと思いたいけれど、お尻のあた

りがスースーしていて私に現実だと教えてくれる。まぁ、成功に失敗はつきものだ。

０１０．このメス豚めっ！！（後書き）

読んでいただき、ありがとうございます＊．

―／／○―【感謝状】

011．あえて言おう

この国は昼夜の温度差が激しい。いくら暖かい格好をしていても夜中、それも高い場所にいると強風が吹き、より寒さが増す。

人目のない夜中、温かい格好で、窓枠などを伝って下りるまでは良かった。でも、この凍てつくような風とお尻の穴から入る冷気は予想外だ。

「さぁ〜〜〜ぶぅ〜〜い〜〜！！」

耐えきれない寒さに、歯はガチガチ鳴り、顔や手足など体の感覚がなくなってきている。ちなみに尻尾は丸くなって体に張り付いていて、耳は風でダ●ボのように羽ばたいている。この耳に飛べる機能が内蔵されるのをキボンヌ。

自分の部屋からは結構遠ざかったと思うが、良い屋根が見つからず下に降りれなくて、ずっと横に移動してきた。そろそろ疲れたので休憩が欲しいと思うのは逃亡中のくせに生意気だろうか。

ビューっと吹く横風に、寒いを通り越して痛い。その時、暗闇の奥ににバルコニーが視界に見えた。やっと休憩ができると、バルコニーに降りようとしたら手足に上手く力が入らない。ヤバい、と思

った時には、私の足はカクンッと足場を踏み外していた。

ドンッ！！！

落ちた、受験に。間違った、バルコニーに落ちた。お尻から思いっきり。お尻の骨が折れたと思う様な痛みだ。数分の間、私は痛さのあまりバルコニーで蹲（うずくま）り「ひっひっふーっ」とラマーズ法してみる。

「おめでとう、元気な男の子ですよ！！」

無駄にそんな事を言って、立ち上がると　目が合った。カーテンの隙間から、こちらを見ていた男の子と。・・・・い、いつから見ていたのだろか。出来れば、お尻をさすっていた辺りは見ていないと良いな、と願わずにはいられない程の可愛らしい男の子だった。

目はくりっと大きく、唇もぷっくら桃色、髪はふんわりとした金髪の色白な男の子。あらやだ、私の元に間違って天使が来ちゃってますよ神様。歳は１３歳ぐらいだろうか。カーテンの端を握って、こちらを伺う姿は愛らしい。爪の垢をぜひ煎じて飲ませてほしいぐらいだ。私にも可愛さを分けたまへ。

「…キミは、獣人なの？」

男の子は窓を少し開けて、尋ねてきた。鈴が転がる様な声…ではなくて、意外とダンディーな声だった。お姉さん、声変わりの前に君と会いたかったな。

皆が言う獣人ってイマイチ分からないが、私の事を皆そう呼ぶので、多分そうなのだろう。耳と尻尾が生えているこの世界の種族か何かかな…見たことないけど。

「たぶん、そうかな。」

「へぇ…。」

男の子は、私を観察するように上から下まで見た後に、興味なさそうに呟いた。獣人と聞いて、土下座や尊敬の眼差しを向けられたり、王様のように変態の対象に見られたり様々だったが、この子の反応は今までの誰にも当てはまらない。少し興味がわく。

「寒いし、窓しめておいてね。」

そう言って、窓から離れて部屋に入って行く男の子。これはサッサと何処かに行けよ、なのか中に入って温まって行きなよ、なのか

悩む言葉だ。後者の方が私の都合として良いので、そのように受け止めて部屋にお邪魔さてもらうことにした。私が自己中だって？知ってる。

『本当に厚かましい子だねぇ～』

何か他の音と混ざった様な独特の声が聴こえた。それも内容は私の悪口。声の主を探そうと部屋全体を見渡すと、蝋燭が灯っているこの部屋は不気味なことに気付いた。絨毯も壁もカーテンも、家具が全体的に黒色なのだ。それも、実験でもしているのか、変な葉っぱや毒々しい色の液体、模様などか書かれた本が散乱している。一言感想を言うならば、呪われそうだ。

なんて、思ってたら目の前にカラスが降りてきた。

『私も見つけられないなんて、ドジな子だよぅ～』

そして、目の前のカラスが喋った。こんな耳や尻尾をつけて、お城にいる私が言えないけど　あえて言おう、ファンタジーだと！

011．あえて言おう（後書き）

更新遅れてすみません（；´・ω・）

読んでいただいてありがとうございます＊．

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2498r/

吾輩は獣である。

2011年5月12日23時20分発行